

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL093-321-2931 (担当; 櫻谷)

第93号 平成25年6月

シャチに追われているイルカの大群です！！



長崎県対馬にあります対馬海上保安部比田勝海上保安署所属の巡視艇あきぐもが、対馬の北東の沖合において、シャチがイルカを追っている様子进行中撮影しました。

こんなにたくさんのイルカが泳いでいるのも驚きですが、九州北部海域をシャチが泳いでいるのも驚きですね。

磯場での救助事案が発生しています

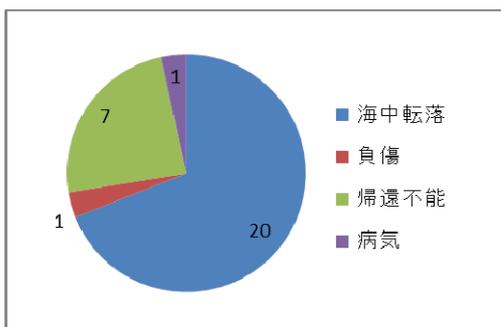


先月、長崎県の海域において、岩場で釣りをしていた方々を救助する事案がありました。

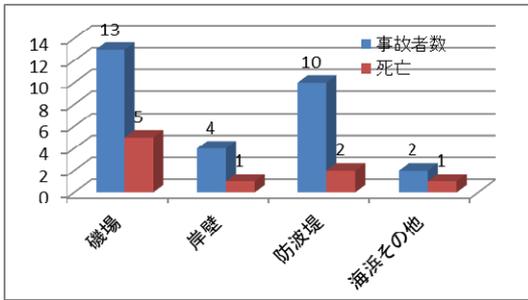
この事案は、瀬渡し船で11名の方が昼間に岩場の上陸、夜中に波が高くなり、釣りを続けることができなくなったことから岩場の高台に避難していましたが、天候が回復しないことから携帯電話により118番通報を海上保安庁に行い、長崎県防災ヘリコプター、福岡航空基地ヘリコプター、瀬渡し船により全員救助されました。

皆さんライフジャケットを着用していましたので、大事には至りませんでした。

磯場での釣りは、絶好の釣り場である反面、天候が悪化した場合は危険な場所になるところも多々あります。



H24年 釣り中の事故者数
(事故形態別) 【29人】



H24釣り中の事故状況（発生場所別）
【事故者29人うち死亡行方不明者9人】

荒天が予想される場合は、取り止める勇気や、釣り場所を変更するなどご自身や仲間の身の安全を第一に考えていただく必要があります。

磯場での事故は、海中転落が大きな割合を占め、ライフジャケットを着用していた場合でも、悪天候の場合には死亡・行方不明につながることもあります。

安全確保を最優先するという意識が、瀬渡し船業者の方々、利用者の方々の双方に求められます。磯場での事故をゼロに近づけるために、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

自己救命策の実践で、無事人命救助完了しました！！



4月の出来事ですが、鹿児島県の沖合いで操業していた漁船に、航行中の作業船が衝突しました。

漁船は転覆し、乗船していた船長さんは、海中に投げ出されてしまいましたが、作業船は衝突に気づかず航行していきました。

漁船の船長さんは、ライフジャケットをしっかりと正しく着用しており、転覆した漁船の船底に這い上がり、ビニール袋に入れていた携帯電話で118番と家族に通報。

家族から連絡を受けた僚船が現場に急行し、無事救助されました。

漁船の船長さんは普段から海難に遭ったときのことを想定し、ご自分でシミュレーションをされていたとのことで、事故に対する意識の高さが迅速な救助に結びつきました。

ご自分や家族の皆さんのためにも、海で命を守る3つのポイントの確実な実践を、よろしくお願いいたします。

海で命を守る 3つのポイント

- ライフジャケットの常時着用
- 連絡手段の確保
防水携帯電話の携行！
- 海のもしものは「118番」

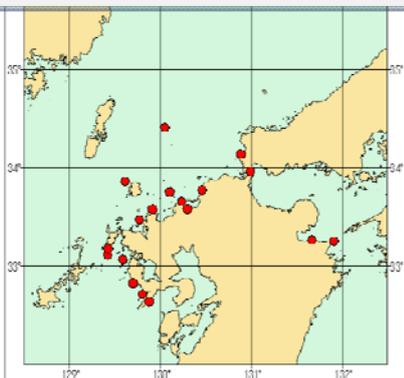
JCG 海上保安庁第七管区海上保安本部



バックナンバーはこちら

http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anzen_report/

●平成25年5月プレジャーボート等海難発生地点図



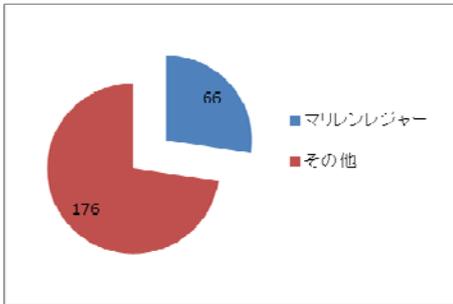
平成25年マリンレジャー事故発生状況（速報値）					
船舶事故隻数			海浜事故者数		
海難種類	5月	累計	レジャー種類	5月	累計
衝突	5	9	釣り中	12	23
機関故障	5	11	遊泳中	0	0
乗揚げ	2	5	磯遊び	0	0
運航障害	3	11	その他	2	6
火災	0	2			
推進器障害	4	8			
浸水	0	1			
安全障害	0	3			
転覆	0	1			
その他	2	4			

マリレジャー夏季安全推進活動を実施します！！

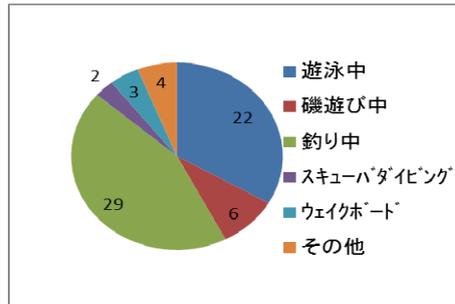
第七管区海上保安本部では、7月1日（月）から8月31日（土）の間、マリレジャー夏季安全推進活動を実施します！！

- マリレジャーに関する海浜事故は、例年7月～8月の盛夏期に遊泳中の事故が最も多く発生していることから、多数の海水浴客が予想される夏休み期間中の土、日を重点的に、巡視船艇、陸上職員によるパトロール及び関係機関と連携した安全啓発活動を行います。

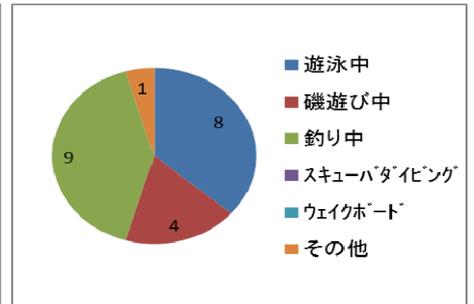
H24七管区人身事故者数
(自殺を除く)【242人】



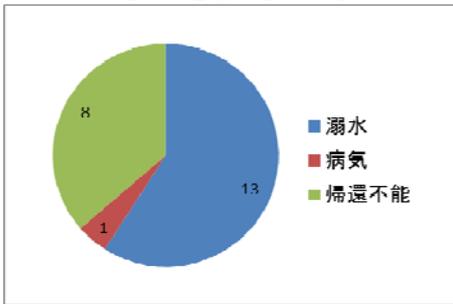
H24マリレジャー海浜事故者数
(活動内容別)【66人】



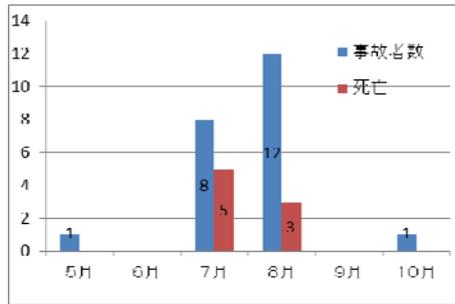
H24マリレジャー海浜事故
死亡行方不明者数(活動内容別)【22人】



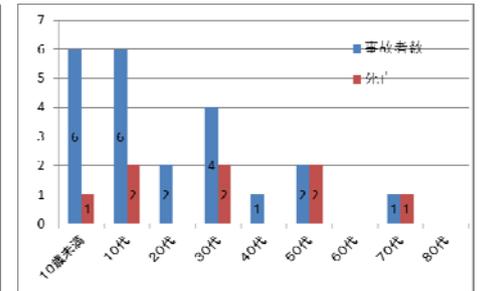
H24遊泳中の事故者数
(事故形態別)【22人】



H24遊泳中の事故者数(月別)



H24遊泳中の事故者数(年代別)



遊泳中の事故については若年齢層に多いことから、小中学校において児童・生徒等を対象とした安全講習会等を開催するなどして、離岸流（※岸から沖へ発生する潮の流れ）に対する知識の付与と自己救命策の確保について、また、ペットボトル・クーラーボックス等身の回り品を活用した救助手法について周知啓発します。

ライフジャケットの常時着用について、あらゆる機会を通じて指導・啓発することとしています。

【自己救命策確保三つの基本】

○ライフジャケットの常時着用→浮力の確保

釣りや海上でのレジャーを楽しむ際は、常時ライフジャケットを正しく着用しましょう。

○携帯電話等の緊急時の連絡手段の確保→速やかな救助要請

防水パックに入れた携帯電話の携行等、適切な連絡手段を確保しましょう。

○海上保安庁への「118番」通報→海のもしものは118番

通報を受けた当庁は、他の救助機関とも連携し、直ちに救助に向かいます。
GPS機能付き携帯電話で118番通報すると、おおよその位置が同時に通知され便利です。

H20～H24（7月・8月）
ライフジャケット着用率調査結果

